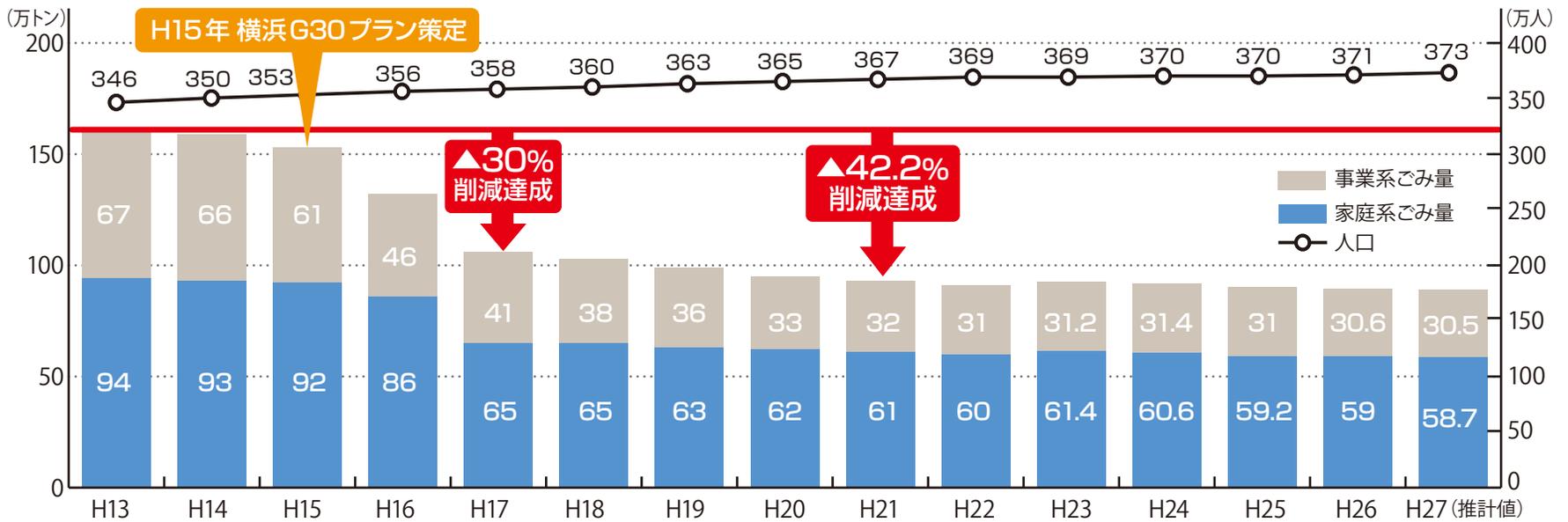


- 1面 これまでのごみ減量による成果
- 2面 新たなごみ削減計画ヨコハマ3R夢プラン
ごみ問題の大切さを考えましょう

これまでのごみ減量による成果

G30計画では、平成22年度までにごみ量の30%削減(対平成13年度比)を目標に、分別・リサイクルを進めてきました。それまでの5分別7品目を10分別15品目へと拡大し、平成17年度に5年前倒しでの目標達成を成し遂げました。その後も順調にごみの削減は進み、平成21年度には42.2%の削減が達成されました。

ごみ量・人口の推移 ※出典:横浜市資源循環局『一般廃棄物処理基本計画』、『平成27年度事業概要』より



大きなごみ減量の成果

平成17年度に、5年前倒しで**▲30%削減**を達成
平成21年度には**▲42.2%削減**

さらに

焼却工場を削減

埋立処分場の延命化

燃やすごみの減量により
温室効果ガス(CO₂など)を削減

都筑区は横浜市内で平均年齢が最も若く、現在都市開発が進行中の元気な区です。価値観や生活様式が多様化するなか、「都筑区に住んで良かった」と思える地域を作り上げるため、しっかりと皆さんの声を市政に届けてまいります。

横浜市議員 長谷川たくま

横浜市議員(都筑区選出)

長谷川たくま
(琢磨)

力強くたくましく



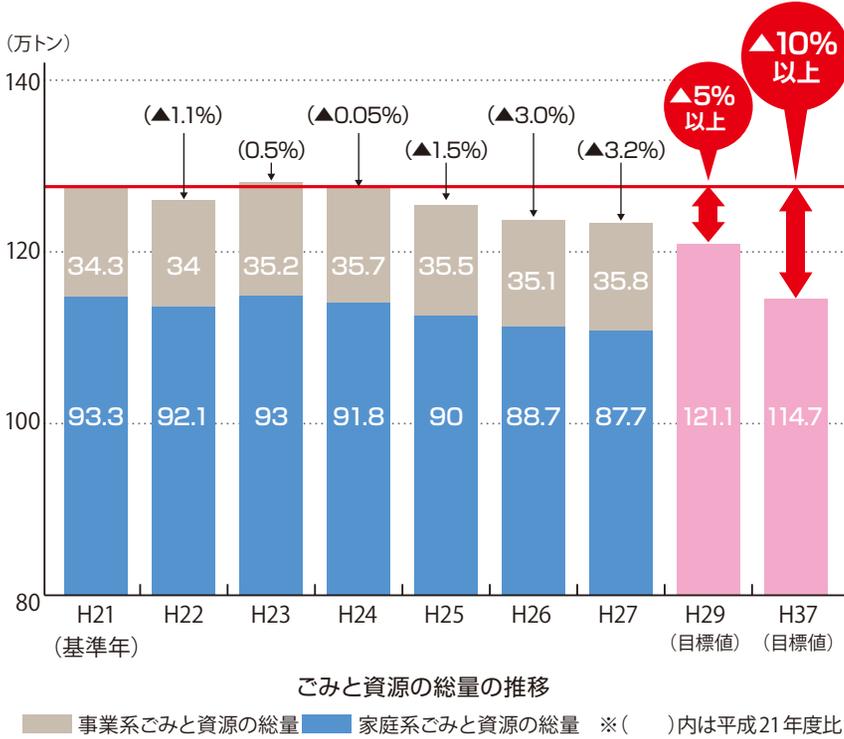
- 昭和54年生まれ(37才) 横浜市都筑区東方町在住
- 2015年4月横浜市選挙 都筑区より初当選

新たなごみ削減計画 ヨコハマ3R夢プラン

3R夢の「3R」とは、**Reduce**(リデュース、ごみそのものを減らす)、**Reuse**(リユース、再使用する)、**Recycle**(リサイクル、再生利用する)の事で、平成23年以降、横浜市はG30から更に一步踏み込んだ分別・リサイクル・リデュース(発生抑制)計画を進め、二つの目標達成を目指しています。

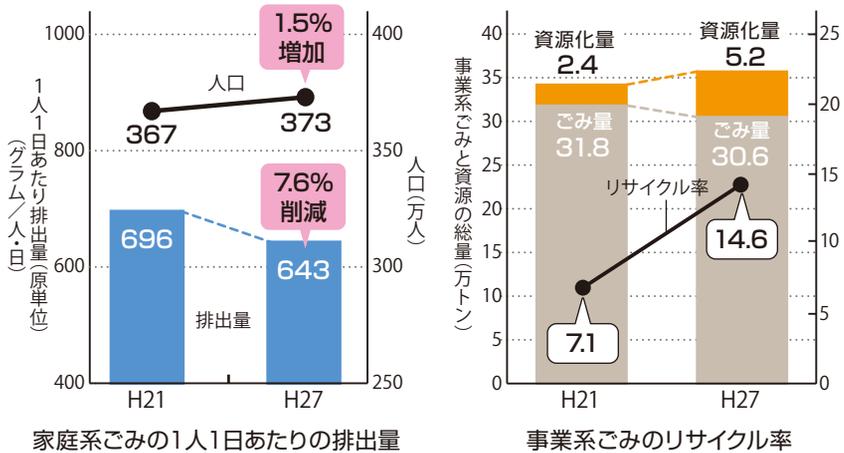
目標① もっとチャレンジ・ザ・3R

ごみの総排出量を平成37年度までに**10%以上削減**
(対平成21年度比)



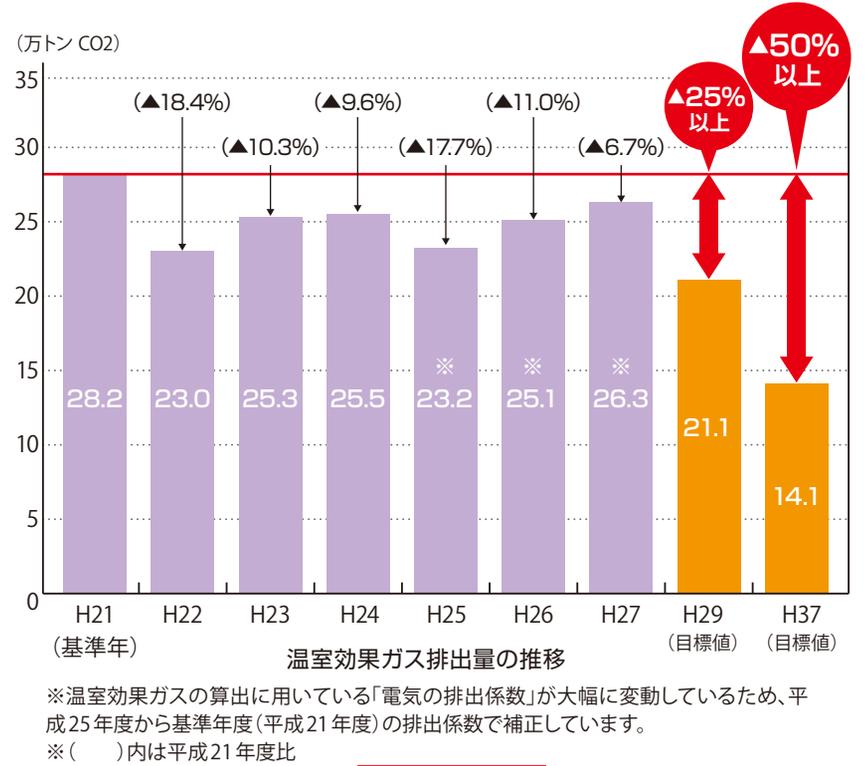
現在の状態

平成27年度のごみの総量は約123万5千トンで、21年度に比べ3.2%の削減にとどまっています。内訳として、家庭系ごみが約87万7千トンで21年度比6%の削減、事業系ごみが約35万8千トンで21年度比4.4%増加となりました。家庭系ごみは、一人が一日に排出する量に換算すると、21年度比7.6%の削減となりました。これは人口が増加する中、各家庭の取り組みがごみの総量削減につながっていることを表しています。事業系ごみは、総量としては増加しているものの、資源化される割合が年々上昇していて、ごみ処理方法が焼却からリサイクルへと変わってきていることを表しています。



目標② ごみ減量から始めよう脱温暖化

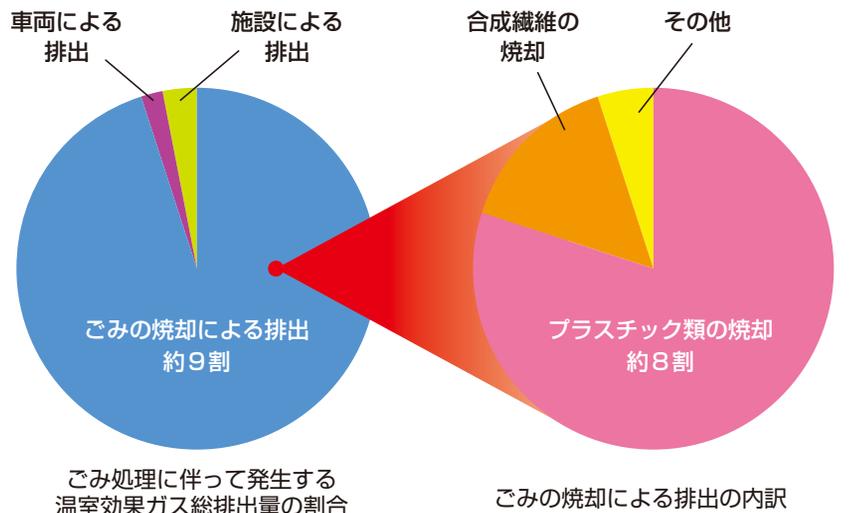
ごみ削減により、ごみ処理に伴い排出される温室効果ガスを平成37年度までに**50%以上削減**
(対平成21年度比)



現在の状態

平成27年度の温室効果ガス排出量は約26万3千トンで、21年度に比べ6.7%の削減にとどまっています。温室効果ガス排出量の約9割がごみの焼却に伴い排出され、その約8割がプラスチックの焼却に起因しています。このことから、焼却ごみに含まれるプラスチック類の分別の徹底が更に必要です。

ごみ処理に伴い排出される温室効果ガスの発生要因



※出典:横浜市資源循環局『一般廃棄物処理基本計画』、『平成27年度事業概要』より

ごみ問題の大切さを考えましょう

ごみ処理について普段から気にかけている方は少ないと思います。しかし最終処分場建設は、予定地確保すら難しいのが実態です。現在稼働中の最終処分場と建設中の次期最終処分場を少しでも長く使用可能とするために、無駄なごみの削減がより一層必要となります。また温室効果ガス排出量削減は、地球温暖化を防止するために必須です。そのためにも焼却ごみに含まれるプラスチック類などの資源ごみの分別を、今以上に徹底させる必要があります。ごみ処理の安心・安全・安定は、誰もがごみで困らない住みよい街の実現には必要不可欠です。ぜひごみ問題の大切さを認識し、ごみの削減及び分別にご協力ください。



長谷川たくまはこう思う

横浜市議員(都筑区選出)

最終処分場の長期使用と地球温暖化防止のため、無駄なごみの削減がより一層必要となります。

焼却ごみに含まれるプラスチック類などの資源ごみの分別を、今以上に徹底させる必要があります。ぜひごみ問題の大切さを認識し、ごみの削減及び分別にご協力ください。